資料3



EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

サステナビリティ戦略・実施計画の 方向性について

【戦略】AIPH要求事項に対する記載案(目次①)



● サステナビリティ戦略のAIPH要求事項等をもとに、目次案を作成します。

AIPH要求事項			戦略の目次案		
エグゼクテ	ーィブサマリー	エグゼクティブサマリー			
	サステナビリティの意義	1	はじめに		サステナビリティの意義
はじめに	ビジョン&ミッション				博覧会の開催意義
	価値観			1.3	ビジョン&ミッション
	規範的・制度的枠組み			2.1	規範的・制度的枠組み
状況分析	国際規格	2	状況分析	2.2	国際規格
	背景情報・環境分析			2.3	背景情報・環境分析
	人権			3.1	↓ t左
	労働	3			労働
 	腐敗防止		+	3.3	腐敗防止
基本方針	ダイバーシティ&インクルージョン		基本方針	3.4	ダイバーシティ&インクルージョン
	アクセシビリティ			3.5 3.6	アクセシビリティ
	環境				環境

【戦略】AIPH要求事項に対する記載案(目次②)



● サステナビリティ戦略のAIPH要求事項等をもとに、目次案を作成します。

	AIPH要求事項			戦略の目次案			
	目的			4.1	目的		
目的と目標	目標	生物多様性 水環境 脱炭素 エネルギー 公害教と解体 建設 デザイン・計画 交通・会場内移動 海外からの参加者 持続可能なイベント運営 レガシー	4	目的と目標	4.2	目標	4.2.1 生物多様性 4.2.2 水環境 4.2.3 脱炭素 4.2.4 エネルギー 4.2.5 公害対策 4.2.6 廃棄物と解体 4.2.7 建設 4.2.8 デザイン・計画 4.2.9 交通・会場内移動 4.2.10 海外からの参加者 4.2.11 持続可能なイベント運営 4.2.12 レガシー
まとめ		5 まとめ					
付録	基本方針		(「3 基本方針」内に記載)				
水布に1	ガイト	ドライン	(「5 まとめ」	内に記	己載)	

【実施計画】AIPH要求事項に対する記載案(目次)



● サステナビリティ実施計画のAIPH要求事項等をもとに、目次案を作成します。

AI	PH要求事項	実施計画の目次案			
はじめに	目的 前提条件と制約条件	1	はじめに		目的 マイルストーンと成果物 前提条件と制約条件
	リスクアセスメント				リスクアセスメント ステークホルダー分析
ガバナンスとステーク	経営の概要	2	2 組織とステークホルダー	2.1	経営の概要
ホルダーのマネジメント	ステークホルダー分析		のマネジメント	4.1	・ 中土口マグルルタ
	アクション	3 アクション	3 アクション	2 1	フクション学業
 実施スケジュール	マイルストーンと成果物				アクション定義 RACIマトリクス
	RACIマトリクス				ガントチャート
	ガントチャート				
予算		4	予算		
モニタリングと評価	パフォーマンス・モニタリング	5	モニタリングと評価	5.1	パフォーマンス・モニタリング
		6	ドキュメント		マイルストーン一覧 アクション、指標一覧

【戦略】AIPH要求事項に対する記載案(状況分析)



	AIPH要求事項	戦略の項目案	戦略の記載案(抜粋)
規範的・ 制度的 枠組み	国際的な法的枠組みの理解、遵守 ・ 博覧会が遵守すべき国際的な条約・法律等を確認する 国内、自治体の法的枠組みの理解、遵守 ・ 博覧会が遵守すべき国内の法律等を確認する	規範的・ 制度的 枠組み	・ (国際) パリ協定・ (国際) 昆明・モントリオール生物多様性枠組・ (国内) 環境基本法・ (自治体) 横浜市環境基本条例
国際規格	国連持続可能な開発目標 (SDGs) の理解・準拠 ・ 博覧会の開催によるSDGsの各目標への貢献方法を検 討する	国際規格	・博覧会の開催によるSDGsの各目標への貢献 方法について、持続可能性の根幹を担う「生 物圏」に関連する目標をはじめ、記載する。
背景情報環境分析	PESTEL分析の実施 ・博覧会に関連性が高く、社会の注目度が高い国内外の「政治(Politics)」、「経済(Economy)」、「社会(Society)」、「技術(Technology)」、「環境(Environment)」、「法律(Legal)」に関する動向を確認する	背景情報環境分析	 (政治) ロシア・ウクライナ情勢 (エネルギー問題や物価上昇等) (経済) 世界的な物価上昇(建設工事含む) (社会) 新型コロナウイルス感染症 (技術) Society5.0の推進 (環境) ネイチャーポジティブ、30by30等の生物多様性に関する目標の設定 (法律) サステナビリティに関連する法制度の整備
	SWOT分析の実施 ・ 博覧会開催における 「強み(Strength)」、「弱み(Weakness)」、 「機会(Opportunity)」、「脅威(Threat)」 を整理し、各項目にどのように対応すべきかを検討する		 (強み)日本・横浜の優れた植物や園芸文化、農業 (弱み)博覧会協会の人員体制 (機会)国内外の旅行の回復 (脅威)世界的な物価上昇

【戦略】AIPH要求事項に対する記載案(基本方針)



AIPH要求事項	戦略の項目案	戦略の記載案(抜粋)
人権	人権	• 「国連グローバル・コンパクト」、国連の「ビジネスと人権に 関する指導原則」に則り、本博覧会の関係者は、国際的に認め られている人権の保護を支持、尊重する。
労働	労働	• 「国連グローバル・コンパクト」、ILO(国際労働機関)の 「国際労働基準」に則り、受注者及びサプライヤーの職員の適 正な労務管理と労働環境を確保する。
腐敗防止	腐敗防止	• 「国連グローバル・コンパクト」に則り、本博覧会の関係者は、 国際規範、国内法令を遵守する。
ダイバーシティ& インクルージョン	ダイバーシティ& インクルージョン	博覧会の運営全般において、関係者の多様性を尊重する。 (人種、ジェンダー、年齢、宗教、出身地等)
アクセシビリティ	アクセシビリティ	• 様々な利用者のニーズに対応する総合的な対応を推進する。
環境	環境	• GX (グリーントランスフォーメーション) の実現に向け、国際的枠組みや国内法令等を遵守し、生物多様性の保全、気候変動対策等の環境対策を推進する。

【戦略・実施計画】AIPH要求事項(目的・目標・KPI①)



● AIPH要求事項の「AIPHが求めるKPIの策定内容」等をもとに、KPI (重要業績評価指標)や協会の取組等を検討します。また、AIPH要求事項の5つの目的と12の目標は相互に関係しているため、取組間のトレードオフを最小化し、相乗効果を生むような取組を推進します。

	AIPH要求事項	AIPHが求めるKPIの策定内容	協会の取組案(検討中)
	①気候変動対策	• 都市環境における植物と緑地を活用した気候変動適応と復元 プログラムを実施する	計画地周辺における自然環境との連続性を持った緑のネットワークの構築GREEN×EXPO 2027の脱炭素化の検討
	②生物多様性の保全	• 都市における自然環境の保全と、持続可能な園芸を世界中に 拡大することを推進する	グリーンインフラを基軸とした会場計画の検討環境アセスメント(環境影響評価)の適切な実施
目的	③持続可能な調達 と資源管理	• 循環型経済の原則を採用し、プラスチック廃棄物やその他の 汚染を削減し、効率的な生産と倫理的なサプライチェーンマ ネジメントを支援する	• 持続可能性に配慮した調達コードの策
	④公平性と包括性	• 園芸バリューチェーンにおける公正・公平な慣行、多様性、 人権を確保しながら、すべての人のために植物栽培と緑地の 保全・拡大を推進する	定・運用
	⑤サステナビリティ 教育と意識向上	• 植物とその生育場所の重要性が理解され、植物栽培を通じて 地域環境を保護し向上させるための行動を起こすよう、その 魅力を伝え、情報提供し、そして人々に感銘を与える	• 情報発信を意識した展示解説・修景植 栽の検討

出典: AIPH「Sustainability Strategy Guidance」

【戦略・実施計画】AIPH要求事項(目的・目標・KPI②)



A]	[PH要求事項	AIPHが求めるKPIの策定内容	協会の取組案(検討中)
	①生物多様性	・ 博覧会エリア内外の動植物の保護や開催後の生物多様性の保 全に関する目標を設定する	グリーンインフラを基軸とした会場 計画の検討環境アセスメント(環境影響評価)の 適切な実施
	②水環境	• 水の消費、水需要の削減と代替、水資源保護に関する目標を設定する	• 灌水消費量の削減
目標	③脱炭素	 博覧会開催による気候変動への影響を緩和するためにScope1 (直接排出)、Scope2(エネルギー起源の間接排出)、 Scope3(Scope2以外の間接排出)に関する目標を設定する 博覧会がカーボンニュートラルを達成できるかを検討する 	• GREEN×EXPO 2027の脱炭素化の検討
	④エネルギー	• 脱炭素実現のためのパッシブデザイン、エネルギー効率、敷 地内外の再生可能エネルギー発電に関する目標を設定する	・ 再生可能エネルギー電気の調達100%
	⑤公害対策	• 博覧会開催による潜在的な公害の影響を軽減するための騒音、 光害、雰囲気、周辺住宅への影響の緩和に関する目標を設定 する	環境アセスメント(環境影響評価)の 適切な実施
	⑥廃棄物と解体	• 廃棄物の回避・削減、再利用、リサイクルに関する目標を設定する	• 「GREEN サーキュラー建築」による循 環経済の推進

出典: AIPH「Sustainability Strategy Guidance」

【戦略・実施計画】AIPH要求事項(目的・目標・KPI③)



4	AIPH要求事項	AIPHが求めるKPIの策定内容	協会の取組案(検討中)
	⑦建設	・ 恒久的なインフラ、仮設構造物、看板と装飾 、使用する資材、 造園と生態系管理に関する目標を設定する	• 将来公園施設の積極的な活用
	⑧デザイン・計画	• 博覧会のデザインに関する目標を設定する	• 設計配慮指針の策定
	⑨交通・会場内移動	交通とモビリティ、ウォーカビリティ(歩きやすさ)、特別 なニーズへの対応を含むアクセシビリティに関する目標を設 定する	・ 公共交通等による会場アクセスの向上
目標	⑩海外からの参加者	• 海外からの参加者に関する目標を設定する	・ 公式参加者(外国政府・国際機関)向 けポータルサイトを開設
	⑪持続可能な イベント運営	会場の運営とマネージメントに関連する食品・ケータリング、 小売、式典、ショー、プロモーションに関する目標を設定す る	 ESMS (イベント・サステナビリティマネジメントシステム) の構築 (ISO20121の認証取得・運用) 食品ロスの削減の推進
	迎レガシー	• 材料や構造物、その他の資産の再利用、景観の回復、報告に 関する目標を設定する	博覧会施設の公園への継承博覧会の持続可能性に関する取組の継承

出典: AIPH「Sustainability Strategy Guidance」

【戦略・実施計画】基本方針・目的・目標・KPIの具体的な取組の記載案

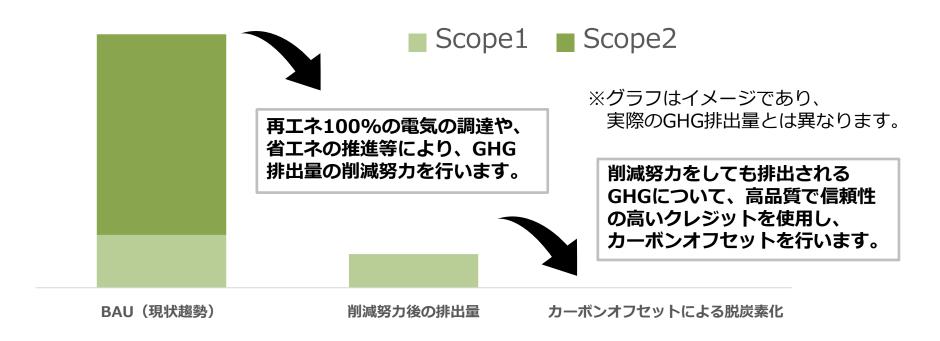


- 戦略・実施計画の基本方針・目的・目標・KPI等には、現時点で、 以下のような具体的な取組の記載を検討しております。
 - ➤ 【脱炭素】GREEN×EXPO 2027の脱炭素化の検討
 - ▶ 【生物多様性】グリーンインフラを基軸とした会場計画の検討
 - ▶ 【建設・廃棄物】「GREEN サーキュラー建築」による循環経済の推進
 - ▶ 【環境全般】環境アセスメント(環境影響評価)の適切な実施
 - ▶ 【ガバナンス】博覧会協会のガバナンス機能の強化

【脱炭素】GREEN×EXPO 2027の脱炭素化の検討



- GX (グリーントランスフォーメーション) の実現に向け、博覧会協会のGHG排出量のScope1, 2について、再生可能エネルギー100%の電気の調達や省エネの推進、カーボンオフセット等の取組により、脱炭素化に向けて検討を進めます。
- Scope3についても、来場者や関係者等と協力し、GHGの排出削減に努めます。



^{*1} GHG (Greenhouse Gas): 気候変動の要因となる温室効果ガス

^{*2} Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出、Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3:Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

^{*3} BAU (Business as Usual):対策を実施しなかった場合の現状趨勢ケース

【生物多様性】グリーンインフラを基軸とした会場計画の検討



既存の自然環境や生物多様性を保全・活用し、グリーンインフラを基軸とした会場計画を進めます。

1 自然環境ポテンシャルの継承と向上

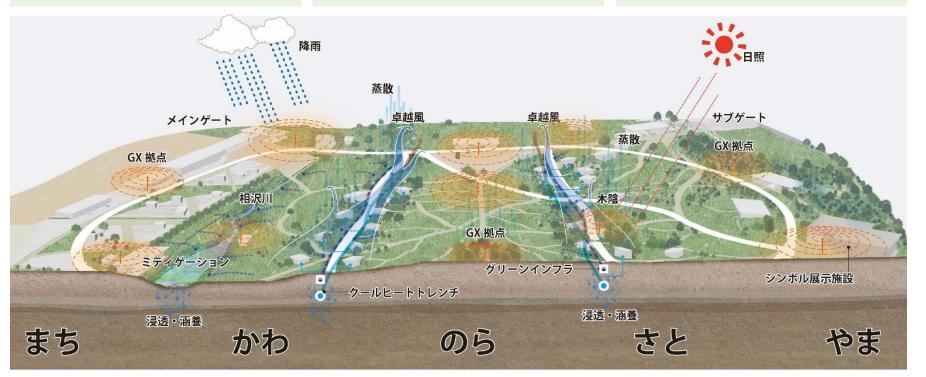
- ●まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する 生物といった**既存の自然環境をできる限り保 全・活用**する。
- ●さらにそのポテンシャルを向上させることに より、**自然との共生の場、自然を通じたコ ミュニティ形成の場**の基盤として活用する。

2 会場の快適性や魅力の向上

- ●水と緑と風の道を効果的に取り入れるなど、 来場者にとって快適で安心・安全な、魅力 ある会場づくりを行う。
- ●グリーンインフラを通じた環境教育・活動などを展開し、多様な主体間のつながり、 多様な人々の参加・交流を促進する。

3 整備・管理運営における環境負荷の低減

●カーボンニュートラルなど世界の潮流も意識しつつ、**会場の整備・管理運営全体で環境負荷の低減**を図っていく。



【建設・廃棄物】「GREEN サーキュラー建築」による循環経済の推進



GREEN×EXPOにおける仮設建築物は、環境に配慮された「GREEN サーキュラー建築」とします。

風景に呼応する建築

- ・上瀬谷の地形、流域、既存樹及び卓越風などの自然環境条件や、展示・出展・修景のまとまりに沿った配置や向きとし、周囲に溶け込む規模、高さとする。
- ・光、風、水、土の自然エネルギーを積極的に取り込む ため、屋根や開口部、基礎等を工夫する。
- •屋外庭園(植物)の一日の変化や季節の移り変わりを 感じ、心地良い屋外に開かれた設えとする。

GREEN サーキュラー建築

植物とともにある建築

- •素材、エネルギーとしての植物、空気中の酸素を生み出す植物の価値や知性を五感で感じ、幸福感 (Well- being)を得られることをデザインする。
- 日本の地域風土の中で、長年にわたり植物と密接な 結び付きと係りを持ってきた建築と植物の関係を見 つめなおし、現代の技術を活用し、人と植物と建築 の新しい関係を提案する。

巡りつながる建築

- •日常のメンテナンスや将来の改修が容易であると ともに、後利用を予め見込むなど、周辺環境や機 能に応じて成長していく建築とする。
- 環境に配慮した素材を選び、廃棄物としない。特に国産木材等は、構造・仕上材やファニチャー、 エネルギー等として使いきることにより、森林資源の循環に寄与する。

ネイチャーベースドデザインによる会場と GREEN サーキュラー建築

- 日本の植物資源と文化を活かすとともに、博覧会後 の花と緑にあふれたグリーン社会を見据えた魅力的 な会場を提供します。
- 会場内の仮設建築は、循環型(リユース、リサイクル)とし、環境負荷の低減、資材の有効活用が図られた「GREEN サーキュラー建築」とします。
- 建材には、国産木材の積極的な活用を図ります。
- 先行して工場で部材を製作、現場での建設作業低減を図ります。これにより、労務負荷の低減、工期短縮を図ることができます。



【環境全般】環境アセスメント(環境影響評価)の適切な実施



横浜市環境影響評価条例に基づき、現在、**「環境影響評価準備書」の手続き**を行っています。

1 環境影響評価手続き



事業の計画を立案するにあたり、環境の 保全について配慮すべき事項の検討を行 い、その内容を記載したもの

方法書

環境への影響を<u>調査、予測、評価する項</u> 目や、その手法を記載したもの

準備書

方法書に基づき、環境への影響を<u>調査、</u> 予測、評価した結果等を記載したもの

評価書

市長や住民等の意見を踏まえ、準備書の 内容に検討を加え、<u>最終的な評価を記載</u> したもの

2 環境影響評価の対象事業

	事業の種類	対象事業の規模					
	争乗の惟親	第1分類事業(※1)	第2分類事業(※2)				
運	動、レクリエーション施設等の建設						
	第2種特定工作物の新設	市街化区域内20ha以上 市街化調整区域内10ha以上	15ha以上20ha未満 7.5ha以上10ha未満				
	都市公園の新設	敷地面積20ha以上かつ 形質変更区域面積10ha以上	15ha以上かつ 7.5ha以上				
I	業団地の造成	造成面積10ha以上	7.5ha以上10ha未満				
流	通業務団地の造成	造成面積10ha以上	7.5ha以上10ha未満				
±	地区画整理事業	土地区画整理事業の面積40ha以上 (森林法に定められる森林の区域を 10ha以上含む場合には20ha以上)	30ha以上40ha未満(森林の区域 を7.5ha以上含む場合には15ha以 上)				
麗	発行為に係る事業	市街化区域内20ha以上 市街化調整区域内10ha以上	15ha以上20ha未満 7.5ha以上10ha未満				

3 本博覧会の環境影響評価項目(工事中、開催中、撤去中)

温室効果ガス			
生物多様性水循環(地下	動物 植物 生態系 k位、湧水の流量、河川の形態・流量、海域の流況)		
廃棄物・建設発生土(一般・産業廃棄物、建設発生土) 大気質(大気汚染) 水質・底質(公共用水域の水質・底質、地下水の水質) 土壌(土壌汚染)			
騒音 振動 地盤(地盤沈 ⁻	Б)		
悪臭 低周波音 (ニレビジュン) 赤油暗宝 (ニレビジュン) 赤油暗宝 (ニレビジュン) 赤油暗宝 (ニレビジュン)			
電波障害(テレビション電波障害) 日影(日照阻害、シャドーフリッカー) 風害(局地的な風向・風速) 安全(土地の安定性、浸水、火災・爆発、有害物漏洩)			
地域社会(地は 景観 触れ合い活動の	或分断、交通混雑、歩行者の安全)		
	水循環(地下を 廃棄物・建設等 大水土騒動(大変)を 大変)を 大変)を 大変)を 大変)を では、 大変)を では、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を		

※「環境影響評価制度」とは、事業が環境に及ぼす影響について事前に調査・予測・評価を行い、その結果を公表し、 市民や市長等から意見を聴くなどの手続を通じて、適切な環境保全対策等を検討し、事業計画に反映させる制度です。

【ガバナンス】博覧会協会のガバナンス機能の強化



国際的大規模イベントならではの特性や、一部公費を財源として公益的な事業を 行う博覧会協会の特性を踏まえ、継続的な**コンプライアンスの推進体制を構築**し、 **ガバナンス機能を強化**しています。

	ガバナンス機能の強化内容	具体的な取組例
1	コンプライアンス推進 の仕組み・体制	 監査課の設置 コンプライアンス委員会の設置
2	規程類の整備	 コンプライアンス規程の整備 役職員の職務上の倫理に関する規程の整備 契約事務への関与に関する規程の整備
3	役職員への コンプライアンス意識啓発	① コンプライアンス関連及び 会計・契約事務関連規程の役職員への周知
4	情報公開	① コンプライアンス関連及び 会計・契約事務関連規程をホームページに掲載

参考:公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会HP「協会概要」等で定款・規程等を公表中。